

<p>学校教育目標</p>	<p>「みんなと のびる」 ～人と関わり合い 未来に伸びる 児童の育成～</p>	<p>経営理念</p>	<p>【ミッション】生涯にわたって主体的に学び、多様な他者と協働し高まりあおうとする人間力を育成する(ビジョン) 1 児童一人一人が、自己存在感を実感し、共感的人間関係の中で「豊かな心」を育むことができる温かい学校 2 児童一人一人が、学ぶ楽しさを実感し、みんなと仲間の中で「確かな学力」/「たくましい体」を育む学校 3 教職員一人一人が、児童に対する愛情と教育に対する使命感を持ち、専門性を発揮しながら対応できる組織的な学校 4 「開かれた教育課程」のもと、家庭や地域と連携し、伝統の継承と創造を実現する学校</p>
---------------	--	-------------	---

評価計画				自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針				
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
豊かな心(徳)	1	多様な他者を尊重し、協働できる児童の育成	いじめ、不登校、問題行動のない学校・学年・学級づくり 東広島スタンダードの定着	学校・学年・学級経営の充実(情報の共有化と組織的な対応) 縦割り班活動の充実 無言掃除、無言移動、無言集合の徹底 ノーチャイムによる学校生活 キラキラカードの活用 心のサポーター、スクールカウンセラーの活用	項目「ほめられたり、認められたりすることがある」での、児童の肯定的評価	90%以上	94	94	3	4	「ほめられたり、認められたりすることがある」については、94%の肯定的評価となり、目標値を達成したと言える。しかし、前期と比べて、否定的評価が増えている。学級内での係活動やキラキラカードへの呼びかけが不十分であり、児童の自己存在感をもちたせることでできなかったことが要因の一つだと考える。	A	・目標達成のための方策が有効に機能している。 ・認められることで、自分を肯定的に捉えることができる。 ・アンケートで否定的評価をした児童への対応も継続してもらいたい。 ・縦割り班でのキラキラカードを活用するよと思う。	キラキラカードの活用により、同年だけでなく異学年の友達の良いも積極的に気付かせていく。また、登下校の確認の声や挨拶などの見本となる児童を全校朝会で紹介する取組みを行い、自己肯定感や自己有用感を高めている。
					項目「学校は安心して生活できる」での児童の肯定的評価	95%以上	88	92	3	4	「学校は安心して生活できる」については、肯定的評価が中間評価時より42%増加し、92%であった。中間評価時よりも学級の雰囲気に関係し、担任との良好な関係性が構築されたことやコロナ禍における学校行事も、制限された中で行うことができ、友達との関わりが増えたことにより向上したのではないかと考える。	A	・先生と児童の距離が近いのは、よいことである。 ・心身共に安心できる環境に気を配っている。 ・コロナ感染症拡大時に迅速に対応され、学校生活に支障がないよう最大限に努めた。	引き続き、児童の様子を把握し、児童が不安に思う事を取り除けるように必要に応じて適切に声掛けをしていく。また、児童が安心して学校に通えるような環境づくりや支援体制を整えるなどの学級経営の充実を図っていく。
確かな学力(知)	2	主体的に学ぶ児童の育成	基礎学力の向上	授業力の向上(国語科の授業研究を中心とした研究推進による指導方法の工夫と改善) 計画的なチャレンジタイムの実施	国語科、算数科の単元テストで80点以上を80%以上、50点未満を2%以下の学級	80%以上	39	8	1	1	通常学級13のうち、評価項目をクリアしたのは1である。国語科80%以上をクリアは8、50%未満をクリアは0、算数科80%以上をクリアは3、50%未満をクリアは7、学校全体で考えた場合、国語科の点率は79%、算数科の点率は71%、国語は2%以上、算数は50点未満は23%であった。2教科とも基準を満たすことは難しかった。全体として算数科の方が前期よりも前期の方が90点に到達した児童が増えている。しかし50未満の児童も増えている。国語は前期とあまり変化がなかった。国語科で中間期の引き上げを図るとともに50未満の児童への適切な支援と復習が必要であると結果が示している。	C	・指導方法改善や学び合い活動の工夫等、学力向上に有効に機能する仕組みをつけてほしい。 ・来年度の目標設定の在り方を考えていってほしい。 ・教科のイメージをシフトさせる取組みが必要である。 ・読書タイムを10分間としよう。	各担任が、児童の該当教科についての課題を把握し、基礎的・基本的な事項に力を入れる。間違い等のやり直しを大切に。また学習スキル向上に向け、学年末において把握した各教科の課題の徹底した復習を図る。そして読書本傾向の改善に向けた更なる読書活動の推進を行い、課題の改善に努める。
					項目「文章を読んで、自分の考えを持つことができる」での児童の肯定的評価	90%以上	85	90	3	3	「児童アンケートによる肯定的評価は90%であった。また、「全く」肯定的回答をした児童も減少した。授業の中で児童に考えをもてる活動を継続したこと、教師が児童に肯定的評価をするようになったことで、児童の肯定感が上がったと考える。	A	・よく努力されていると感じる。 ・機能している方策について全教員で共有し、各学年学級で使えようよに仕組みを構築してほしい。	来年度の研究教科は未定であるが、どの教科においても教科特有の見方・考え方を働かせ、自分の考えをもつ、考えを基に話し合ったりして考えを深めることが重要である。引き続き考えをもたせるための手立ての工夫を行うことを大切にしていきたい。
					項目「授業中は落ち着いて学習できる」での、児童の肯定的評価	90%以上	88	95	3	3	「授業中は落ち着いて学習できる」と回答した児童が、前期よりも7%増加した。前期よりも学級や学校のきまりを守ろうとする児童が増えたことや、教室環境が整ってきたことが、児童の評価につながったと考える。	A	・否定的な回答をした児童への対応や取組みが生きていると思う。 ・改善が認められるので、今後も継続してほしい。 ・タブレットを活用した授業をもっと増やしてほしい。	児童が落ち着いて学習できるようにするためには、まずは環境づくりが重要である。全校で取り組むことは重要である。ICTの工夫などの情報や知識は共有して各自が工夫できるようにするなど、今後も研究部から啓発していく。
たくましい体(体)	3	健康でたくましい心と体の育成	望ましい生活習慣の確立 「新しい生活様式」の徹底	「生活リズムキャンペーン」の実施 「新しい生活様式」の徹底	運動やスポーツに親しむ児童の増加(ほとんど毎日、ときどき運動する)	合計85%以上	82	91	3	4	運動やスポーツを「ほとんど毎日している」は34%から53%に上がり、運動やスポーツに親しむ児童「ほとんど毎日している」と「ときどきする」を合わせて91%であった。毎日カード等の宿題に運動を取り入れたことや郷GOタイムで運動の紹介をすることにより、運動やスポーツをする児童が増えたと考える。	A	・「毎日カード」の取組や生活リズムキャンペーンの取組みは、成果を上げている。 ・体は一生の資本なので、礎を培ってほしい。 ・しっかりと食べ、楽しく学んでくれたらよいと思う。	来年度も運動やスポーツに親しむ児童を育成していくために、郷GOタイムやプリント配布などを通して、運動の紹介をする。また、休時間外の遊びをする児童を増やすため、委員会活動と連携して、遊びの紹介やイベントの企画をしていきたい。
					体力、運動能力の向上	体育科授業、体育的行事の充実 計画的な「郷GOタイム」の実施	新体力テストにおける体力、運動能力の向上(1~6年男女別、計24項目のうち、全国平均値を超えるもの)	55%以上	67	80	4	4	本年度の前期における重点項目「上体起こし」は92%、立ち幅跳びは42%であった。後期は、立ち幅跳びを重点課題とし、45%から79%に向上した。体育科授業前のサーキットや郷GOタイムで紹介された運動を取り入れたことにより、跳ぶ運動に親しむと共に、跳力の上につながったのではないかと考える。	A
地域とともにある学校づくり	4	保護者や地域に開かれた信頼される学校づくり	保護者、地域と連携した「共育」の推進	学校運営協議会制度の導入と推進 学校行事の充実 地域団体との定期的な交流	項目「学校は、保護者や地域と連携を密にし、共に教育活動を推進している」での、肯定的評価	90%以上	90	93	3	4	「家庭や地域との連携」については、肯定的評価が中間評価より39%増え、93%であった。しかし一部には、連携状況に否定的な回答の保護者も見られる。コロナ下による学校行事等への参加制約なども否定的な要因の一つだと考えられる。	A	・地域との連携はできているが、ボランティアの登録に課題がある。 ・多様な方法を使いながら、地域と学校を繋げる次世代の人材を育てたい。 ・年間に1~2回ほど土曜日の参観日を実施してほしい。	引き続き、機を逃さない丁寧な連携を心がけるとともに、コミュニティスクール推進員、地域学校協働活動推進員を活用し、学校支援ボランティアの募集等、地域の教育資源を整理していきたい。
					学校教育活動に関する情報発信	90%以上	92	95	3	4	情報発信については、95%の保護者から肯定的評価があり、前期より3%増えている。しかし、CRMによる情報発信の内容に対する保護者の理解や呼びかけに対する返信には課題が見られる。(後期のアンケート回答247/392)	A	・よく努力されていると思う。 ・コロナ対策を講じながらできる範囲で様々な努力をしている。	引き続き「学校だより」や「学年だより」等の内容の充実を図るとともに、今後は、児童用タブレット等の有効活用も検討し、教育活動に対する保護者の興味、関心を高めている。
					「働き方改革(業務改善)」の推進	項目「やりがいをもって勤務できる環境づくりの推進」での、肯定的評価	85%以上	97	97	4	4	東広島スクールサポート制度を活用した学校支援者の配置は、配慮や支援を必要としている児童の情緒を安定させるとともに、教職員の学習指導や生徒指導の時間や場を確保することにもつながり、大きな成果が見られる。	A	・意欲が高く、働き方に主体性が感じられよいと思う。 ・広大生の活用をより活用して、働き方改革に役立ててほしい。 ・先生が前向きで元気なことが、学校の力の源である。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...目標を上回って達成
3...目標どおりに達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)
A...とても適切である
B...概ね適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない